

企業等の概要

企業等名: バイオマスパワーテクノロジー株式会社(三重県松阪市) 代表取締役: 北角 強
事業内容: バイオマス発電所運営、山林経営等
事業規模: 発電所出力1,990kw(平成30年竣工)、借受・受託含めた管理山林面積約4,000ha(うち所有林約600ha)



URL: <https://bpt.co.jp/>

特徴的な取組

- ①「新しい林業」経営による広葉樹・早生樹生産・恒続林施業
 - ・持続可能性と収益性が高く、かつ獣害にも強い新しい森づくりを前提として、燃料利用なども含む恒続林多間伐多収穫施業を検討するため、紀伊半島エリアでセンダン・ヤナギ・コナラ・クヌギ・ミズナラ・ウバメガシなどの広葉樹・早生樹種を対象に苗生産・植栽・育林・搬出の効率性検証を実施中
 - ・資材運搬コスト削減と安全性向上のためドローン活用を実施
 - ・早生樹(センダン)の生産体制を確立することを目的に奈良県明日香村において耕作放棄地を活用。地元青少年とともに植樹イベントを実施
- ②山林集約化・スマート林業による林業イノベーションの推進
 - ・奈良吉野地域において架線集材による搬出コストの大幅な削減を実現
 - ・三重県いなべ市にて、数十年に及ぶ施業放棄森林を対象に集約化の実現と整備を実施したことにより、地域の生産森林組合との連携体制を構築
 - ・バイオマス発電所から発生するバイオマス燃焼副産物(焼却灰)を活用し、アップサイクルした環境配慮型再生資源(路盤材、土壌改良剤、骨材、特殊肥料)を山林施業・林地再生に使用していくため各種実証を進めている



松阪木質バイオマス発電所
(1,990kW:FIT認定)



協力会社の古家園における
センダンの生育状況(5年生)



NEDO「エネルギーの森」事業
ドローン荷上げ実証(YouTube)



空から見る
植林現場/植林設計
(YouTube)



森林・林業・木材産業施策に関する御意見

テーマ: 多様な森林づくり、森林環境の保全

- ・J-クレジット制度の活用を検討したが、プロバイダー企業への委託費等にかかるコストが非常に高額であり、導入を断念。J-クレジット制度の代替策として、土地開発事業者との間で相対契約による生物多様性保全契約(約40ha)を締結し、1,000万円以上の収益を得ることができた。この収益により、長年施業が放棄されていた山林の整備を実施。これらの取組事例から、TNFD・TCFDなどの国際的な開示基準とも整合性を保ちつつ、国内の森林所有者にとっても参加しやすく、収益性が確保される、より柔軟で実効性のある森林環境保全制度の設計が必要。

テーマ: 木材の価格形成

- ・現在、物価やエネルギー価格の高騰により、林業における生産コストは年々増加。一方で、木材価格はそれに見合うほどの上昇が見られず、結果として山林整備を継続的に行うには採算が合わない。このままでは健全な森林経営が困難になり、林業従事者の意欲や担い手の確保にも深刻な影響を及ぼしかねない。木材の価格形成の透明性向上、バリューチェーン全体での利益配分の是正が急務。山林整備、山林従事者の確保と今後の林業発展の視点から、総括原価方式を採用し、市場においてはその価格からのオークション制度を導入してはどうか。

テーマ: 林業従事者(労働安全、所得向上、育成・確保)

- ・林業従事者の確保と定着は、現場においてますます困難となっている。求人を出しても応募は限定的であり、採用に至ったとしても待遇の改善が困難なままでは、数年以内に離職するケースが少なくない。新たな担い手を確保・育成するうえで、持続可能な収入水準と労働条件の整備は不可欠。また、林業は労働災害のリスクも高く、安全管理体制の強化も引き続き重要。高度な技能や安全意識を持った人材の継続的な育成と、キャリアパスの構築、若年層や移住希望者への支援制度の充実が必要。林業従事者の実情を踏まえ、上記の木材価格形成とあわせて、所得の安定化と労働環境の改善に資する施策を充実してほしい。